

小野町新庁舎建設基本計画（案）へのご意見募集（パブリックコメント）の結果について

1 意見募集の概要

(1) 募集期間

令和5年3月27日（月） から 令和5年4月25日（火）17時まで

(2) 閲覧場所

小野町ホームページ

(3) 提出方法

電子メール、FAX、郵送又は持参

(4) 意見提出先

〒963-3492

小野町大字小野新町字館廻 92 番地

小野町役場 総務課（本庁舎1階）

2 意見募集の結果

(1) 意見提出者数 5名

(2) 意見件数 24件

(3) 意見の概要及び当町の考え 以下のとおり

No.	意見	回答
1	過年度に選定された候補地が廃案とされた事由は、洪水浸水地域内とのことである。資料では、小野町中心街が90%以上洪水浸水地域にあるとなっているが、現在右支夏井川の河川整備がなされている現況でも洪水浸水地域は変わらないのか。	資料の洪水浸水想定区域は、水防法第14条の規定により令和2年3月10日付けで福島県県中建設事務所が指定した河川改修整備以降の想定最大規模（2日間の総雨量562mm）の洪水浸水想定区域になります。
2	平成14年2月作成の「小野町中心市街地活性化基本計画」を参考とする意見はなかったのか。	中心市街地の活性化については、まちづくりの重要な視点であるため、今後の社会情勢の変化を考慮しながら、新たな活性化策を様々な観点から検討してまいります。
3	役場庁舎建設は、町の将来に対する最大の設備投資と考えており、根本的に中心市街地を活性化させる考えも必要かと思う。基本コンセプトに中心市街地を活性化し魅力あるまちづくりと人口を増加させると入れるべきである。	中心市街地の活性化ももちろんですが、町全体の活性化を検討した結果により基本計画を策定したものです。中心市街地の活性化と魅力あるまちづくりについては、本計画とは別に様々な角度から、今後検討してまいります。

4	<p>基本計画にある太陽光発電パネルの導入について、ソーラーパネルは火災の際に消火活動を難化させ（通電しているため水が使えない）、廃棄方法に未だ明確な手法がない。安易に導入するのは、将来への負担を増大させかねないとする。</p>	<p>脱炭素社会の実現に向けた取組の推進及び災害時の非常電源確保の必要性から、太陽光発電パネルの導入に向けて引き続き検討を進めてまいります。</p>
5	<p>選定評価内容の3つ目「町全体における中心的な立地」及び「誰もが利用しやすい」について、つどっておのまち付近のジャンクションは、今後立体交差を含めた県下一複雑な道路に成長することが確実である。極めて難しい道路状況を鑑みるに、良好かつ安全なアクセスを確立するには、相応の工夫が必要とする。また、高低差と住宅地域からの距離からコミュニティバスやタクシーが必須とする。</p>	<p>新庁舎へのアクセス道路については、安全性と利便性に十分配慮しながら検討してまいります。また、今後、さらに高齢化が進むことから、交通弱者の方への対応については、新庁舎に限らず他の公共施設や病院、商業施設などへの利用も含めて様々な交通手段を調査検討してまいります。</p>
6	<p>役場庁舎の施設例として三春町役場と田村市役所がほぼ全例を占めているのはかなり視点が狭いとする。今後数十年における重要施設なので、多様な事例を今後参考にして計画を進めてほしい。</p>	<p>新庁舎については、多くの自治体の施設例を参考にさせていただいておりますが、基本計画では身近な近隣自治体の施設例を示させていただきました。今後も他の多くの施設を参考にしながら検討を進めてまいります。</p>
7	<p>基本性能と導入機能における参考事例について、多くの画像において採光性の悪さや天井高からくる開放性の低さ、色合いとデザインによる閉鎖性が目立つ。長年利用するにあたって“居心地の良い”施設を目標の一つに捉えていただきたい。</p>	<p>新庁舎の基本方針である「町民に親しまれ誰もが利用しやすい庁舎」の建設に向け、ご指摘を踏まえ、居心地の良い施設となるよう検討を進めてまいります。</p>
8	<p>今年（2023年）までの数年の物価変動を鑑みても、今後庁舎が完成するまでに物価の高騰が10%程度で済むとは考えにくい。策定以後に予算が苦しい状況に陥ることを避けるため、変動幅に余裕を持たせても良いと思われる。</p>	<p>社会情勢を見極めながら物価の変動に注視するとともに、大変重要な部分でありますので、コスト削減に向けた建設手法についても引き続き検討を進めてまいります。</p>

9	<p>駐車場、駐輪場等の建設規模について、近郊のインターチェンジが多重構造化するに従い、国道 349 号沿いの新庁舎付近の交通量は増加することが想定される。</p>	<p>駐車場の建設規模は、公用車用 35 台、職員用 127 台、来庁者用 60 台、緊急支援車両用として 10 台の合計 232 台分を予定しています。交通量が増える週末や休日における駐車については、職員用のスペースを活用することで対応してまいります。</p>
10	<p>景観・周辺環境への調和について、「本町の持つ豊かな自然環境」とあるが、ここにあぶくま高地の持つ花崗岩質岩石のデザインが追加されても良いと思う。</p> <p>東日本大震災における本町の減災に大きくかかわっていたのが地質であり地盤の強さが本町における強みと魅力の一つでもある。</p>	<p>大変重要なお意見として小野町の特徴を活かした庁舎建設検討の参考とさせていただきます。</p>
11	<p>防災拠点機能について、小野町は福島第一原子力発電所から概ね直線で 35 キロメートル前後に位置している。</p> <p>今後廃炉まで四半世紀以上が見込まれている現状から廃炉作業中の大規模な災害をリスクとして仮定しないことは有り得ない。</p> <p>最低限、乳幼児の避難を想定した設備を役場庁舎に組み付けるべきと考える。</p>	<p>新庁舎の防災拠点機能として自主避難所スペースを備える予定です。災害時には様々な方が避難されることが想定されることから、今後の庁舎建設検討の参考とさせていただきます。</p>
12	<p>避難施設の確保について、避難所に指定されている町民体育館が近辺にあるといっても、役場自体にも必要性を感じるので、屋上の緑化や太陽光も大事だが、屋上への避難先確保も必要と考える。</p>	<p>新庁舎の防災拠点機能として自主避難所スペースを備える予定ですので、近隣の避難所の収容人数や災害時の想定避難者数を勘案しながら、自主避難所スペースの必要面積について検討を進めてまいります。</p> <p>屋上については、太陽光パネル等の自然エネルギーの導入や庁舎関連機材などの設置も検討していることから屋上への避難スペースの設置は予定しておりません。</p>
13	<p>町の歴史を感じる施設の設置「新庁舎は町の歴史と調和したデザインとする」とのことであるが、どこかに町としての合併から新庁舎建設までの歴史を感じられるスペースを作って町民に見てもらうのはいかがか。</p>	<p>他自治体の例も参考にしながら、新庁舎建設までの歴史を感じられるスペースや展示の設置について、今後検討してまいります。</p>

14	町の発展の基盤である商工会が、後継者不足や大型店舗の出現で衰退の一途をたどっているため、役場内に商工会を併設して、より活性化を目指してはどうか。	現時点で新庁舎内への商工会の設置は予定しておりません。引き続き商工会とは密に連携を図りながら、町の活性化に向けた取組を進めてまいります。
15	新庁舎へ入る道路・駐車場の整備について、自動車事故の多くが駐車場で発生しているため、庁舎へ入る道路の整備はもちろん、駐車場の出入りも分かりやすく明確な誘導表示が必要と考える。	新庁舎へのアクセス道路及び駐車場については、安全性と利便性に十分配慮しながら検討してまいります。
16	防災マップに表示された中心市街地の浸水想定地域を全域候補地から除外したことは極端なリスク管理であり、短慮で近視眼的な考え方であると思う。 防災マップ表示の通り、過去の小野町の浸水被害地域は市街地全体には広がっておらず、特定地域に限定されている。防災マップでは、大部分の中心市街地が3メートルから10m浸水するとしているが、このリスク評価は厳しすぎるのではないのか。 さらに、この防災マップは河川改修工事による浸水被害の改善が評価されていないのではないのか。	No.1のご意見に対する回答に同じ
17	現在の新庁舎建設予定地での建設は、防災マップの浸水リスクを強調するばかりで、中心市街地の再開発、町民の利便性、コンパクトシティの実現、少子高齢化社会の対策等々に適せず、将来の対策が軽んじられ、町の空洞化を招く恐れがある。総合的なまちづくりの観点で不足していることを心配する。	中心市街地の活性化については、まちづくりの重要な視点であるため、将来を見据えた様々な観点から新たな活性化策を検討してまいります。併せて、高速交通網等を活用した総合的なまちづくりを検討してまいります。
18	近年に建設された近隣市町村である田村市や三春町の新庁舎についても、ある程度の浸水リスクはあるが中心市街地に建設されている。この点からも町は候補地選定を再考すべきである。役場だけが高台に移り、中心市街地はなおざりに、町民は置き去り	昨今の激甚化する自然災害の状況を鑑み、万が一の際に庁舎が被災し防災拠点機能が停止すれば町民の安全を守れないことから、防災マップで水深3mを超える洪水浸水想定区域については、新庁舎の立地を回避させていただいたところです。

	にされ、見捨てられ感の漂う町になってしまふと町民の大多数は恐れている。	町としては、防災機能を強化することで災害があった際には町民の安全を守る必要があるため、様々な災害に対応できる防災性に優れた場所であり、高速交通網を活かした広域的な防災機能の発揮が期待できる候補地として選定させていただきました。 なお、防災意識の向上に向けた取組や自主防災組織の取組への支援に加え、万が一災害が発生した際には新庁舎を司令塔として迅速に避難を呼びかけ消防団と連携した避難誘導を行うなど、町民の安全・安心に向け万全を期すとともに様々な災害に対応できる庁舎を目指してまいります。
19	新候補地として県立小野高校用地も考えられるのではないかと。過去の候補地選定では一切取り上げられてはこなかったが、福島県で廃校を決定した小野高校用地は優先的に小野町に払い下げられる予定である。場所的にも広さ的にも、予算的にも最良の候補地になり得るのではないかと。	万が一の際に防災拠点機能が停止すれば町民の安全を守れないことから、防災マップで水深3mを超える洪水浸水想定区域については、新庁舎の立地を回避させていただいたところです。 なお、新庁舎建設については、交付税措置のある起債メニューの活用や建設手法の検討により予算規模の圧縮に努めるとともに、小野高校の跡地利用については、魅力あるまちづくりに向け様々な角度から検討してまいります。
20	是非とも新庁舎建設予定地の再選定、再選考をお願いしたい。	新庁舎建設候補地については、人により様々なお考えがあるため、町民の方全員が満足する候補地の選定は困難であると考えております。お示した最終候補地は新庁舎に備える機能を踏まえ庁内で慎重に議論を重ねて総合的に判断させていただいた結果ですので、ご理解をお願いいたします。
21	町民に告知されることもなく、以前町民に示されていた5つの候補地とは全く別の候補地が選定された。新庁舎のプロセスを1	

	年延期し、1年間町民と行政がじっくり討論しあうことを希望する。	
22	浸水想定区域地図を過去の候補地を除外する方便として利用しているのではないかと。もし、中心市街地のほとんどが3mから20m浸水する想定を現実的な想定とするならば、優先すべきは庁舎よりもこの地域の防災施策であって、庁舎予算を防災施策にまわすべきである。	No.18のご意見に対する回答に同じ
23	今回の新庁舎の立地は、都市空間の分散型投資と言える。民間・行政を問わず地域の拡大投資ができない現状と将来を考えれば、地域投資を集約していくいわゆる「コンパクトシティ」に逆行する今回の庁舎選定は将来の地域設計に大きな禍根を残すことになるのではないかと。	人口減少が急激に進む中、地域投資を集約していく視点は重要ですが、万が一の際に新庁舎の防災拠点機能が停止すれば町民の安全を守れないことから、防災マップで水深3mを超える洪水浸水想定区域については、新庁舎の立地を回避させていただいたところです。 また、町内の様々な場所に町民の方々が住まわれている現状から、町全体を考慮した検討結果として今回の候補地をお示しさせていただきました。各地域のコミュニティの維持や交通弱者への対応策などを含め総合的なまちづくりを検討してまいります。
24	小野町には、「高速道路インターチェンジ」と「鉄道の駅」という公共交通の二つの「玄関口」があるが、今回の新庁舎の立地は、高速道路のインターに近いというコンセプトのみをあげており、これはもう一つの「玄関」の鉄道を「捨てる」印象を内外にあたえる。JR東日本が地域鉄道を切り捨てる導火線になるのではないかと危惧する。	県道吉間田滝根線の開通により双葉郡へのアクセスが向上することなどから、磐越自動車道とあぶくま高原道路が通る小野町は交通の要所になることが想定されます。 町といたしましては小野インターチェンジと小野新町駅の2つの玄関を相互に生かしながら、魅力あるまちづくりに取り組んでまいります。